

2021 年度事業報告

事業の概況

認定された公益目的事業を継続実施した。新型コロナウイルス感染症の影響下当協会は極力事業遂行に努めた。

当年度に行った事業の概況は次の通りである。

I 公益目的事業部門

1. 糖類に関する正しい知識の普及・啓発のための事業及び食の安全を基本とした食育推進事業

(公益目的事業 1)

- (A) 業界最大手(株)ホームメイドクッキングの料理学校を媒体とした普及・啓発事業
全国直営校 58 教室、指定校（自宅で料理教室開催）50 教室、親子料理教室 58 教室の合計延 252,000 名の受講者に対し、糖類の正しい知識を身につけた専任講師が、食文化講座及び親子向け食育講座等に於いて、全国展開により普及・啓発事業を実施した。啓発の「費用対効果」を確認するため、職員が教室へ訪問し、生徒と交流、公益目的事業の促進を図った。

イ. 東日本直営校 29 教室 133,990 名（当初計画 148,882 名）

ロ. 西日本直営校 29 教室 108,096 名（当初計画 120,082 名）

ハ. 指定校 50 教室 9,000 名（当初計画 9,000 名）

ニ. 親子料理教室 58 教室 914 名（当初計画 1,036 名）

(B) 糖類セミナー事業

- (1) セミナー開催にあたっては各都市の地元ラジオ局と連携を取りながら、広く募集告知を行い開催した。セミナーでは講師（農学博士・医学博士）と参加者の間で質疑応答や意見交換を行い糖類に関する正しい知識の理解を促進した。

また、参加者へのアンケート調査を実施した。

<開催概要>

イ.2021 年 11 月 15 日 東京都 後援 株式会社ニッポン放送

応募者 1,000 名 参加者 213 名 アンケート回答者 211 名

ロ.2022 年 3 月 15 日 秋田市 後援 秋田放送

応募者 102 名 参加者 69 名 アンケート回答者 61 名

ハ.2022 年 3 月 24 日 広島市 後援 中国放送

応募者 80 名 参加者 63 名 アンケート回答者 58 名

ニ、2022 年 1 月 21 日 東京都 講師・月尾嘉男先生

応募者 61 名参加者 51 名

ホ、2022 年 3 月 22 日 東京都 講師・服部幸應先生

応募者 65 名参加者 56 名

(2) 東京セミナーに向けて、より広く、より深く糖類に関する知識の普及・啓発及び食育の啓蒙を図るため、東京セミナーの提携ラジオ局である株式会社ニッポン放送を通じてオリジナル番組を半年間 26 回放送し好評を得た。

(C) 全日本小学生ドッジボール選手権大会（夏の大会）協賛による普及・啓発事業
未来ある子供達の心身の健全育成を目的とし、全日本小学生ドッジボール選手権、夏季大会及び地方大会に協賛した。

また、全国大会の出場選手に対してアンケート調査を実施した。

主催：一般財団法人日本ドッジボール協会

後援：スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会

（予選会：都道府県数 47 参加チーム 495、参加人数 9,900 名）

（決勝戦：都道府県数 43 参加チーム 45、参加人数 900 名）

2. 糖類に関する調査研究活動に対する助成及び糖類に関する公益活動を行う団体への助成事業

（公益目的事業 2）

(1) ナチュラル添加物としての精糖を活用した食品管理特殊コードの開発

高知大学 教授 河野俊夫氏

(2) 植物感染性線虫の誘引物質である糖の同定と、糖類を用いた農薬を使わない線虫防除農業の提案

熊本大学大学院 教授 澤進一郎氏

(3) 江戸時代から讃岐に伝わる国産糖、和三盆糖。その歴史と現在を映像で記録する。

製作プロデューサー 池田圭介氏

(4) 合成・分解再利用が容易な糖・糖鎖ポリマーの合成

九州大学 教授 國信洋一郎氏

3. 糖類に関する情報の収集、整理、提供事業

（公益目的事業 3）

公益委員が中心となり取集めを行い、知識を高め助成事業等の審査に活かした。

4. 学芸員等を含む専門委員会で選定した特定美術品の展示、公開及び官公庁等の美術館への貸出しにより、広く国民の文化の発展に寄与する事業

(公益目的事業 4)

(1) 公益財団法人大川美術館へ特定美術品 61 点を無料で貸出展示

展覧会タイトル「糖業協会と大川美術館のコレクションによる『松本俊介<街>と昭和モダン』」を開催した。

[2021 年 10 月 16 日 (土) ~12 月 12 日 (日)] 入場者数 1,730 名

II 収益事業部門

1. 会館及び施設の管理運営並びに賃貸を行う事業

(収益事業 1)

- (1) コロナ禍等の影響で、賃料の値下げ対応を行った。この事により、新たな収益策の検討を開始した。
- (2) ビル管理、維持の合理化により更なる経費圧縮に努めて、本事業の費用対効果を高めることに努めた。

III 管理部門

1. 講演会の企画・開催

会員等の連帯感、教養を高めて公益目的事業への更なる協力を促すため、また広く門戸を開き関係者の教養を高めるため、各業界の著名な講師による講演会を予定通り実施した。

2. 会報の発行

協会の公益目的事業や主催行事の趣旨徹底を図るため、会員をはじめ協会の関連団体に向けて年 4 回 (8 月・12 月・1 月・2 月) 発行した。

3. 情報機器による事務の合理化等により、適切な運営・管理を行うと共に、引き続き経費の削減に努めた。

協会運営に関する事項

1. 社員総会

2021 年 6 月 25 日午前 11 時より、当協会会議場に於いて、第 10 回社員総会を開催 (出席正会員 243 名/正会員総数 355 名) 次の議案を付議した。

第 1 号議案 2020 年度事業報告並びに 2020 年度貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録承認の件
原案の通り承認可決した。

第 2 号議案 理事 9 名選任の件
原案の通り承認可決した。

第 3 号議案 監事 2 名選任の件
原案の通り承認可決した。

報告事項 ①2021 年度事業計画書並びに収支予算書（正味財産増減予算書）について説明・報告があった。

②糖業会館 協会スペースの有効活用について説明・報告があった。

2. 理事会

当年度中 11 回開催され、総会提出議案のほか、「公益社団法人」の事業運営に関する諸案件をはじめとする当協会の主要業務につき審議、決定した。

3. 専門委員会

(1) 会員委員会（委員長 矢田理事ほか 6 名）

当年度中 1 回開催（書面審議）され、会員の入会申込者の選考、会員の現状と課題について審議し理事会に答申した。

(2) 公益委員会（委員長 岩崎理事ほか 9 名（内 2 名社外特別委員））

当年度中 1 回開催され、公益事業関係予算、公益事業計画等を審議し理事会に答申した。

(3) 行事委員会（委員長 永井理事ほか 6 名）

当年度中 1 回開催され、行事関係予算、協会行事の計画等を審議し理事会に答申した。

(4) 美術品委員会（委員長 小谷理事ほか 7 名（内 2 名社外特別委員））

当年度中 1 回開催され、美術品関係予算、特定美術品の展示、公開、国公立美術館への貸出等につき審議し理事会に答申した。

4. 特別委員会

(1) ビル事業特別委員会（委員長：塚西理事、委員：飯田理事、永井理事、 上床事務局長）

当年度中に 7 回開催され、ビル事業の有効活用について審議し理事会に答申した。

5. 登記及び監督官庁への届出事項等

(1) 2021 年 6 月 29 日、2020 年度の事業報告等に係る提出書類を内閣総理大臣宛提出した。

(2) 2022 年 3 月 28 日、2022 年度の事業計画書等に係る提出書類を内閣総理大臣宛提出した。

6. 会員入退会者数（2021年4月1日～2022年3月31日）

入会	法人正会員	0社
	個人正会員	3名
	個人賛助会員	0名
退会	個人正会員	28名（内死亡13名）
	個人賛助会員	1名

7. 会員数（2022年3月31日現在）

法人正会員	17社（前年3月末 17社）
個人正会員	315名（前年3月末 340名）
個人賛助会員	38名（前年3月末 39名）
会員総数	370名（前年3月末 396名）

以上